

平成 28 年度中学校武道授業(弓道)指導法研究事業



実践を想定した初心者指導の様子

平成 28 年度中学校武道授業(弓道)指導法研究事業〔主催＝(公財)日本武道館・(公財)全日本弓道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕が平成 28 年 8 月 9 日～10 日の 2 日間、日本武道館(東京・千代田区)で開催された。

今年度は中学校現場等での授業実践例報告を中心に、研修者がそれぞれの立場から報告を行った。また、昨年度に引き続き、弓道採択に向けたリーフレット作成の再検討を行った。

■1 日目(8 月 9 日)

開講式では主催者を代表して三藤芳生日本武道館理事・事務局長が、また研究者を代表して桑田秀子研究者が挨拶に立った。記念撮影を行い、さっそく実践例報告を行った。

はじめに高橋崇子研究者(岩手県・奥州市立水沢中学校教諭)から複数種目採択(柔道・弓道)における実践例報告がなされた。生徒の学びについて柔道授業と弓道授業を比較した。生徒の感想は 1 年次に実施している柔道授業ではマイナスイメージが強かったが実際に履修後のアンケートでは「受け身ができるようになると安全」、

「相手との攻防が楽しかった」など柔道に対する認識が変わったと報告した。続いて 2 年次に実施している弓道授業については、弓道自体の認知度が低くマイナスイメージ・プラスイメージともほぼ同じ割合であった。履修後のイメージは「安全面のルールを守りさえすれば危険の少ない武道だと思った」など意見が出ていたと述べた。それぞれを履修した後の中学生のアンケート結果は次のとおりである。

柔道と弓道の違いについて	柔道	弓道
何と向き合うか	相手	自分
道具の違い	自分の身体	弓具
心(精神)の持ちよう	相手と向き合うことでやる気が出てくる	冷静に集中して行う
体の使い方	体全体を使う	繊細にゆっくりと筋肉を使うイメージ
その他	技のタイミング	心のバランス
	礼の考え方などは同じところが多い	

続いて、岩本裕美研究者(栃木県・栃木市立大平中学校教諭)からの実践例報告では「平成 27 年度より大平中学校へ赴任した。このときすでに学校では弓道授業実施をすることになっていた。自分自身がバドミントン出身のため外部指導者の協力を得て、年間 13 時間授業を行っている。女子生徒のみが弓道を実施しており、男子生徒は剣道の授業を行っている。弓道場は整備されており、非常に恵まれた環境で実施できている。弓道部が強く、実績を残していることから、1 時間目から生徒が意欲的に取



資料を用いて基本動作の確認

り組んでいた。的前に立っていない時はゴム弓で練習をさせているが、運動量が確保できていないことが課題である。今年度も同様に授業実施予定であるが、前年度の経験を活かし、授業に取り組みたいと思う」と報告があった。

この他、高橋潤子研究者から聴覚特別支援学校での実践例報告、一原悦子研究者から中高一貫校での実践例報告がなされた。また、牧野吉伸研究者は中学校部活動指導者の視点から実践例報告を行った。

■2日目（8月10日）

午前中はリーフレット作成の再検討を行った。昨年度からの教育現場での変更点を踏まえ、単元計画は授業時間数を13時間から10時間にするなど、より現場に即したものに変更した。また、掲載項目の見直しや、より見やすいリーフレットにするため、表現方法と紙面作りに時間を費やした。

午後は小道場に場所を移し、『初心者指導のための指導法』を、実際に巻き藁を使用して行った。松本代志博研究者を中心に、特に安全に配慮した指導と初心者の陥りやすい点を確認しながら、現場での悩みや不安を少しでも解消できるよう丁寧な指導が行われた。



閉講式では桑田秀子研究者から「2日間大変お疲れ様でした。中学校武道必修化が始まり、この研究事業などを通じて毎年一歩ずつではありますが弓道の指導法が前進していると実感しております。現在、年間1~2校が弓道を採択していただいていることは、研究者の励みになっております。今後はより採択校が増えるよう努力をしまいたいと思います。また、今回参加の中学校現場の研究者の先生方にはぜひ2月の全国弓道指導者研修会にも参加いただきたいと思います」と述べ、2日間の研究事業を締めくくった。

■参加研究者の感想

◇高橋崇子研究者

短い時間ではありましたが現場の色々な話が聞くことができ、とても参考になりました。自分

の感覚と初心者の感覚の違いを理解することができました。初心者指導に必要なことは何か、今後の課題が見えた気がします。

◇岩本裕美研究者

初心者の私にこのような機会を与えていただき感謝しています。非常に勉強になりました。今回の事業を通して指導していただく中で指導に対する不安が少し解消されました。今年度の授業に活かしていきたいと思います。

◇高橋潤子研究者

今回の研究事業で教えていただいたことを2学期以降の授業に活かしたいと思います。また、リーフレットが完成したら静岡県内で配布し、弓道の採択校を増やす努力をしたいと思います。

◇一原悦子研究者

他校の実践例を知ることが出来て大変勉強になりました。声が聞こえることが当たり前だと思って指導してきたので聾学校での授業実践は特に新鮮な情報でした。今後は出来上がったリーフレットを活用し、一校でも弓道を実践する学校が増えるよう微力ながら貢献させていただきたいと思います。

◇牧野吉伸研究者

中学校部活動指導者という立場で参加させていただきました。授業での指導法は大変勉強になりました。2月に全国弓道指導者研修会がありますので、今回のメンバーが集まり、指導法のみならず、一緒に自らの研鑽に努めていけたらと思います。

◇松本代志博研究者

中学現場の指導はほとんど経験がありません。少年少女チャレンジという事業があり今年3年目を迎えます。小学生から中学生に2時間で矢を飛ばすところまで指導しましたが、実態はとても大変でした。やれる範囲で指導するしかない、知らないことは指導できないという環境を通して、改めて能力にあった指導法を工夫していかなければいけないと感じました。このような経験から指導法の工夫ができればと思います。

